

# 人文地理学会 2010年（2009年度）総会

2010年11月20日 17時～18時 於：奈良教育大学 L4棟 大講義室

## 【I. 会務報告】

### 1. 庶務委員会（小島泰雄理事）

#### ①会員の動向（2010年9月30日現在）

- ・現在の会員数：1410名（国内1362名、海外48名）  
cf) 1468名（2008）、1480名（2007）、1538名（2006）、1528名（2005）、1587名（2004）
- ・2009年度会員数の変動  
入会 39名 cf) 48名（2008）、40名（2007）、47名（2006）、47名（2005）、54名（2004）  
退会 57名（うち逝去2名）、除籍 40名  
cf) 54名（2008）、74名（2007）、37名（2006）、55名（2005）、82名（2004）

#### ②交換・受贈雑誌の動向

国内交換雑誌	51誌	国外交換雑誌	19誌		
受贈単行本	33冊	受贈雑誌	157誌	受贈抜刷	18部

#### ③2009年度理事会・評議員会の開催

理事会5回、評議員会4回（12月19日、4月10日、7月3日、10月9日）

#### ④その他

- ・「地理学文献目録」の継続断念  
現行の編集体制を組むのは困難で、社会貢献と利用価値は残っているが、継続の決定材料とはしがたい。文献目録に代替しうるものではないが、既存事業を拡充し、新規事業を検討する。
- ・会員名簿の発行  
会員に名簿情報の提供を求めた。記載事項については、前回2008年版会員名簿を踏襲した。会員管理システムの移行により、会員データベースからの直接出力を原稿とした。
- ・役員選挙の実施  
選挙管理委員会（島津俊之委員長）を組織して、会長予備選挙・評議員選挙（6月7日投票締切）、会長選挙・協議員選挙（8月9日投票締切）、監査選挙（9月16日投票締切）を行い、役員を選出した。
- ・学生会費制度の制定  
<目的>人文地理学の次代を担う研究者を育成する一助として、また会員数の減少への対策として、さらに大学院生による会誌への投稿の減少に対する対策として、新たに学生会費制度を制定する。  
<対象>大学学部および大学院修士課程・博士課程に在学中の者、またはこれに準ずる者。  
（これに準ずる者とは、学費に相当する費用を大学・大学院等に納付している者をさす）  
<内容>学生会費対象者の年会費を6,000円とする。  
（会費の優遇制度なので、投稿や選挙についても一般会員と同等の権利をもつ）  
<方法>該当会員の自己申告によって適用する。申告は毎年行い、在学証明証の提出、あるいは学生証の電子写真を電子メールに添付して学会事務局に提出する。資格は入会時点、継続会員は1月1日現在とする。なお、資格について、所属教室に問い合わせる場合がある。

### 2. 会計委員会（矢野桂司理事）

#### ①平成22年度科学研究費（研究成果公開促進費）の採択

4月13日に、4月1日付で、平成22年度科研費（170万円）の交付内定通知があった。

（参考：申請額は250万円、昨年度までは概ね180万円の助成であった）

#### ②会費納入状況

2009年度 13,887,775円

会員数の減少、学生特例入会の終了（52名（9500円）（適用期間は2008年1月から2008年12月末日））、督促による回収の増加。

③ 事務局関連

・プロバイダーの変更

来年の見積もり上では、年間9,144円（初年度はやや安い）の増加、再来年は月額1,770円の増加。  
インターネットの安定性とスピードが向上、メンテナンスサービスの充実アップ、レンタルサーバーが可能。メールの変更：hugeog@iaa.itkeeper.ne.jp（従前のynwcc734@ybb.ne.jpは9月末まで）  
また、FAXも専用番号: 075-708-5515

・会誌郵送会社の変更（2010年10月より、日本通運から郵便事業株式会社（ゆうメール）と品屋へ）  
1冊あたり92円から66+31円、複数冊送る場合は割安、タック印刷不要、チラシを入れることも可能。会員住所情報をファイルで品屋へ渡す（契約でファイルの扱いについて触れる）

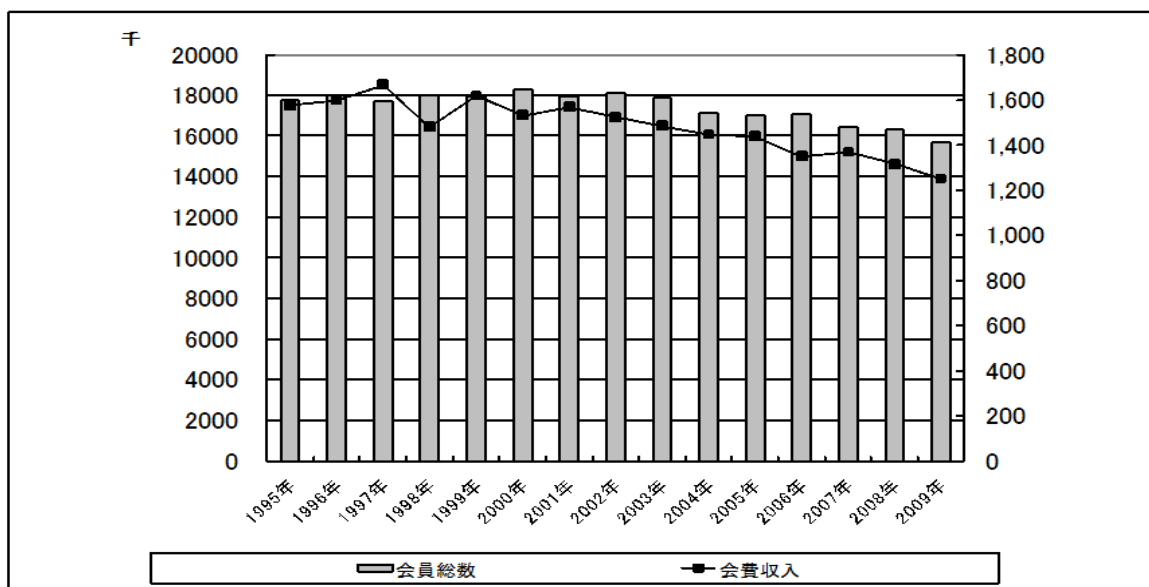
・会員管理システムの移行終了

参考	前回2008年度名簿	印刷費	358,522円
	(有) アシストへ入力・版下作成等経		232,911円
		合計	591,433円
	2010年度名簿	印刷費	371,490円
	フロンティア山田氏へプログラム作成費		175,350円
		合計	546,840円

差引差額 44,593円 が今回の黒字分です。次回名簿作成より印刷費のみになります。  
作成の人件費は庶務委員がする場合不要。（但し通信・交通費は要）

決算年度	会費収入	会員総数
1995年	17,511,500	1,600
1996年	17,758,000	1,621
1997年	18,528,900	1,592
1998年	16,438,515	1,618
1999年	17,993,520	1,615
2000年	17,019,300	1,645
2001年	17,418,780	1,612
2002年	16,937,500	1,629
2003年	16,498,500	1,609
2004年	16,081,675	1,587
2005年	15,984,750	1,528
2006年	14,998,000	1,538
2007年	15,215,355	1,480
2008年	14,620,745	1,468
2009年	13,887,775	1,410
2010年		

科研費	
決算年度	交付決定額
1994年	2,730,000
1995年	2,630,000
1996年	2,630,000
1997年	2,630,000
1998年	2,630,000
1999年	2,230,000
2000年	0
2001年	2,000,000
2002年	1,700,000
2003年	2,100,000
2004年	1,900,000
2005年	2,000,000
2006年	2,000,000
2007年	1,900,000
2008年	1,800,000
2009年	1,700,000
2010年	



3. 編集委員会（伊東理理事）

① 雑誌編集状況 【別紙1】

#### 4. 集会委員会（田和正孝理事）

##### ① 大会

###### ・2009年大会

2009年11月7日（土）～9日（月）の3日間、名古屋大学を会場に開催。

大会参加者数（有料参加者）381名（全員、一般会員のみ）、懇親会参加者数168名

巡検参加者数 27名（案内者を含む）

###### ・2010年大会

2010年11月20日（土）～22日（日）、奈良教育大学にて開催（共催：奈良地理学会）

特別研究発表4件 一般研究発表60件（5会場） 部会アワー（4部会）

##### ② 例会

###### ・第268回例会 2009年12月5日（土） 会場：龍谷大学大宮学舎清風館

研究発表：3（+総括1）参加者数：24名

###### ・第269回例会 2010年4月24日（土） 会場：神戸学院大学ポートアイランドキャンパス

（共催：兵庫地理学協会） 研究発表：3 参加者数：51名

###### ・第270回例会（特別例会） 2010年6月5日（土）・6日（日） 会場：高知市立自由民権記念館

（共催：高知市立自由民権記念館・高知県高等学校教育研究会地理部会 後援：高知県教育委員会）

研究発表：4 参加者数：77名 エクスカーション参加者数：43名

##### ③ 各研究部会

###### ・歴史地理研究部会

第118回 2009年11月7日（土） 会場：名古屋大学

問題提起1 研究発表2（+コメント1） 参加者数：35名

第119回 2010年5月29日（土） 会場：徳島大学常三島キャンパス（共催：徳島地理学会）

研究発表2（+展示解説1） 参加者数：24名

第120回 2010年7月10日（土） 会場：立命館大学大阪オフィス・セミナールーム

研究発表2 参加者数：22名

###### ・地理思想研究部会

第99回 2009年11月7日（土） 会場：名古屋大学 研究発表1 参加者数：27名

第100回 2010年4月10日（土） 会場：大阪教育大学天王寺キャンパス

（共催：大阪教育大学地理学会） 研究発表1 参加者数：32名

第101回 2010年7月31日（土） 会場：新大阪丸ビル新館 研究発表1（+コメント1）

参加者数：16名

###### ・都市圏研究部会

第33回 2009年11月7日（土） 会場：名古屋大学 研究発表：1 参加者数：22名

第34回 2010年1月30日（土） 会場：立命館大学歴史都市防災研究センター 研究発表：2

参加者数：16名

第35回 2010年6月5日（土） 会場：高知市立自由民権記念館

共催：高知市立自由民権記念館・高知県高等学校教育研究会地理部会

後援：高知県教育委員会 研究発表1 参加者数36名

第36回 2010年9月18日（土） 会場：奈良教育大学（共催：経済地理学会関西支部）

研究発表：2 参加者数：20名

###### ・地理教育研究部会

第16回 2009年11月7日（土） 会場：名古屋大学 研究発表：1 参加者数：18名

第17回 2010年5月16日（土） 会場：守口市市民会館（共催：地理教材研究会）

研究発表2（+研究協議）、巡検 参加者数：27名

第18回 2010年8月10日（火） 地理教育夏季研修会 会場：国際奈良学セミナーハウス

共催：奈良地理学会、奈良県高等学校地理教育研究会 研究発表4（+コメント1）

参加者数：55名

※ 第61巻第6号に研究部会活動報告（2007年11月～2009年10月）を掲載した。

## 5. 企画委員会（石川義孝理事）

### ① 人文地理学会公開セミナー

2009年11月に、文部科学省の助成金「研究成果公開発表（B）」に申請（結果は不採択）。  
第10回公開セミナーは、以下の要領で開催。参加者122名。

日 時：2010年10月16日（土）13:00-17:00 会 場：近畿大学Eキャンパス

テーマ：「アジア地域の研究と地理教育」

プログラム：

基調講演 川端基夫（関西学院大学）「地域のストーリーを読み解く地理をめざして  
ーローカル・コンテクストとはどのようなものかー」

報 告 1 松村嘉久（阪南大学）「北京に住まう人々の生活空間と暮らし」

報 告 2 横山 智（名古屋大学）「焼畑再考ー焼畑は環境破壊の原因か？ー」

報 告 3 森本 泉（明治学院大学）「ヒマラヤの環境と社会」

全体討論

後 援：大阪府教育委員会，大阪府教育委員会，兵庫県教育委員会，神戸市教育委員会，  
京都府教育委員会，京都市教育委員会，奈良県教育委員会，奈良市教育委員会，  
滋賀県教育委員会，和歌山県教育委員会、近畿大学経済学部，

### ② 「GIS Day in 関西」

7月3日の評議員会で共催を決定し、以下の要領で開催。参加者250名。

日 程：2010年10月23日（土） 会 場：立命館大学

テーマ：「地理情報システム・地理情報科学の最新動向と社会への広がり」

プログラム 1. GIS Workshop （10:00～12:30）

1）初等中等教育教員向けコース 2）自治体職員向けコース 3）ArcGIS実習コース

プログラム 2. 国際シンポジウム （13:00～15:50）

『世界の地理情報システムと地理情報科学の最新動向』

### ③ IGU京都地域会議関係

準備委員会から2013年のIGU京都地域会議への財政支援の依頼を受け、2009年10月17日の評議員会で、  
2010年10月から2012年9月までの期間に、毎年度25万円の助成を決定。また、組織委員会への委員推薦  
の依頼を受け、7月3日の評議員会で、田和集会理事・小島庶務理事を推薦した。

第1回 IGU京都地域会議組織委員会を、以下の要領で開催した。

日 時：9月13日（月）14:00～17:00 場 所：国立京都国際会館Room 501

日 程：14:00～16:00 全体会議

1 委員自己紹介 2 IGU日本委員会委員長の挨拶

3 これまでの経緯と今後の予定 4 事務局、各委員会の活動予定 5 その他

16:00～17:00 各委員会ごとの打ち合わせ

### ④ 人文地理学会学会賞候補者選考

学会賞候補者選考委員を2009年12月に委嘱し、2010年3月28日（日）に第1回選考委員会を法政大学で開  
催。9月末に以下の答申を受けとり、10月9日の評議員会での承認を経て、11月20日の人文地理学会大  
会の懇親会の前に、受賞者を表彰の予定。 【別紙2-4】

【Ⅱ. 2009年度決算】（矢野会計理事） 【別紙5-6】

【Ⅲ. 2010年度予算】（矢野会計理事） 【別紙7】

【Ⅳ. 2010年度役員】（小島庶務理事） 【別紙8】

【Ⅴ. その他】

## 2009年度 会務報告(編集委員会)

## 人文地理 雑誌編集状況

&lt;参考&gt;

	11月21日	1月9日	3月6日	5月8日	7月10日	9月11日	合計	総計	2008年度	2007年度	2006年度
論説 新規	3	1	4	6	2	1	17	37	25	33	35
論説 再投稿	1	4	4	3	3	5	20				
展望 新規	0	0	0	2	0	0	2	4	1	9	4
展望 再投稿	0	0	0	0	2	0	2				
研究ノート新規	0	3	2	0	4	1	10	24	19	21	36
研究ノート再投稿	1	0	2	4	3	4	14				
合計	5	8	12	15	14	11	65	65	45	63	75
論説 採択	0	3	3	0	0	3	9	9	4	9	6
論説再投稿要請	4	2	3	5	4	2	20	20	11	9	15
論説 返却	0	0	2	4	1	1	8	8	10	14	14
展望 採択	0	0	0	0	2	0	2	2	1	4	2
展望 再投稿要請	0	0	0	2	0	0	2	2	0	3	2
展望 返却	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
研究ノート採択	0	0	0	1	3	2	6	6	10	7	11
研究ノート再投稿要請	1	2	4	3	3	2	15	15	3	8	12
研究ノート返却	0	1	0	0	1	1	3	3	6	7	13
合計	5	8	12	15	14	11	65	65	45	63	75

\* 英文特集はカウントせず

\* 外部レフリー率:11%(昨年度18%)

\* 「論説」として投稿され「研究ノート」に種別変更を求めた論文(3本)は、論説返却としてカウントした。

## 人文地理各巻 発行状況

	総頁数	論説	展望	研究ノート	フォーカス	フォーラム	英文
61巻5号	99	1	0	2	0	1	5
61巻6号	104	4	0	0	0	0	75
62巻1号	114	1	0	2	1	0	15
62巻2号	89	2	0	1	0	1	4
62巻3号	93	2	0	0	0	0	4
62巻4号	102	1	1	2	0	0	6
合計	601	11	1	7	1	2	109
昨年度合計	567	9	4	7	1	0	128

\* 62巻3号の「展望」は「学界展望」を除いている。

\* 61巻6号の「論説」は英文特集論文4本。Editorial Noteは含まない

\* 英文占有率は 18% (昨年度23%)

## 若干のコメント

	2009年度	2008年度	2007年度	2006年度		2009年度	2008年度	2007年度	2006年度
論説採択率	24%	28%	28%	17%	論説返却率	22%	44%	44%	40%
研究ノート採択率	25%	32%	32%	31%	研究ノート返却率	13%	32%	32%	36%
全体採択率	25%	30%	30%	25%	全体返却率	18%	39%	39%	36%

\* 投稿者数を母数にするとそれぞれの率は上がる

(1) 論文投稿数は2007年度の数まで回復したが、再投稿論文数の増加による。新規投稿論文数は29本と2008年度と同じ。

(2) 再投稿要請の数が大幅に増加したこと(14本→37本)は若手投稿者などへの編集委員の粘り強い対応(\*)によるところが大きい。

\* 例えば、視点やデータは優れているが、まとめ方などが拙い論文に対して

(3) (2)は上記の返却率の大幅な減少にあらわれている。採択率は大きく変わっていないので、水準は保たれたというべきか。

(4) 外部レフリー(評議員・協議員)への依頼数の減少は再投稿要請数の増加に関連している。

(5) 個人ベースでみた実質採択率(初投稿から1年以内に掲載)は約5割、同(2年以内)は6割弱である。

## 【別紙2】

2010年9月30日

人文地理学会会長  
金田章裕 様

第10回人文地理学会学会賞（学術図書部門）候補者選考委員会  
委員長 高阪宏行  
委員 小林 茂  
委員 高木彰彦  
委員 山野正彦

本委員会は、第10回人文地理学会学会賞（学術図書部門）受賞候補者として、下記の会員に決定したので、選考理由を付して以下の通り答申する。

### 記

受賞候補者：木下 良

受賞候補図書：『事典 日本古代の道と駅』吉川弘文館、2009年、412頁

選考理由：

本書は、受賞候補者の長年にわたる日本の古代交通研究の成果を集成するだけでなく、これまでのこの方面における達成を事項別、地域別に整理して示したもので、歴史地理学だけでなく、隣接分野にも大きな意義のある著作である。歴史学・考古学の古代交通研究者にくわえ、発掘担当の文化財関係者にもひろく参照されることになる。

本書は全10章よりなり、序章は総論にあたる。ローマ帝国や中国の秦の道路と比較しつつ、日本古代の道路網の特色にふれた後、その制度的側面、発掘例にもとづく駅家の建物配置、さらにこの方面の研究史と調査法を手際よく紹介する。研究史では、藤岡謙二郎が主催した1972年の共同研究を大きな転機としつつ、発掘調査の増大や、学際的な研究の展開など、そのごの研究の発展を追跡している。調査法では、地名、空中写真、地図類を活用するとともに、条里制との関係を考慮しつつ、現地調査による道路痕跡の発見までを紹介する。

つづくI章～VIII章は各論にあたり、畿内を冒頭として、国別に古代道路と駅の概要を述べる。この場合、関連する研究も詳しく示して、短いながら地域別の研究史としても読むことができる。この部分は受賞候補者の精力的な現地調査、発掘現場の視察、さらには中心になってすすめてきた共同研究をふまえていることはあらためていうまでもない。

末尾の終章は、以上で論じることができなかつた重要問題についてふれるもので、まず古代交通の基礎資料とされてきた『延喜式』駅伝馬条にみえる駅名などの誤記や駅馬数、駅名の記載順などを取り上げる。さらに『和名類聚抄』の郷名と駅名とを対比したあと、『延喜式』にみえない駅名の検討へとすすむ。この方面の研究の長足の進歩をふまえつつ、これら基礎資料の再認識が示されるわけである。くわえて「律令国家の計画道路」、「律令国家の諸地方施設と道路の関係」と題する結論的な節をもうけ、従来議論されてきた研究上のトピックについて成果を論じている。

本書「あとがき」によれば、出版社からの依頼は、当初古代交通に関する論文集であったというが、受賞候補者が本書を刊行するにいたったのは、この方面の急速な研究の展開をふまえつつ、現在までの成果を集約することに大きな意義を感じていたからと思われる。「事典」という語がタイトルに加えられたのは、その総説的性格からであるが、多彩な論点がみごとに配置され、ここ数十年間の研究の大きな進歩を展望しつつ、実感することができるよう構成されている。この展望は、同時に今後の研究の出発点を提示するものでもあり、単なる総説を越えた、大きな学術的意義をもつ著作といえよう。また専門家だけでなく、この方面に関心を持つ学生や市民にも理解の可能性がひらかれており、今後の古代道路や駅家遺構の保存などにも有用で、人文地理学会学会賞（学術図書部門）の授与にふさわしい著作として推薦する。

【別紙3】

2009年9月30日

人文地理学会

会長 金田章裕 様

第10回人文地理学会学会賞（一般図書部門）候補者選考委員会

委員長 島田周平

委員 神谷浩夫

委員 手塚 章

委員 若林芳樹

本委員会は、第10回人文地理学会学会賞（一般図書部門）候補者として、下記の会員に決定したので、選考理由を付して以下の通り答申する。

記

受賞候補者：三木理史

受賞候補図書：『局地鉄道』塙書房、2009年、215頁

選考理由：

本書は、日本における局地鉄道の展開を、明治維新前後から現在までという歴史的パースペクティブのもとで系統的に考察した本である。戦前期の海外植民地における局地鉄道をも視野におさめ、時間的および空間的に全体像を提示しようとした意欲作である。また、そうした包括的な内容を、いたずらに煩瑣な事実提示にかたよることなく、時期的・地域的な特徴を中心に明快に論じている。

局地鉄道の普及や設置形態などの地域差について、地理的要因などの面から説明がなされているのはもちろんのこと、技術者や事業家などのキーパーソンにも注目し、局地鉄道とローカルな地域との関わりについて具体的に示している。また、局地鉄道の変遷に影響を与えた国の政策や他の交通機関との競合関係などにも留意し、第二次大戦後の局地鉄道の電化が、近代化によるものというより燃料事情によるところが大きかったという歴史的側面の解説がなされる一方、ローカル線廃止による交通弱者への影響や、観光資源化との関係など、局地鉄道を取り巻く現代的問題についても十分な配慮が払われ、優れた一般図書となっている。

著者は鉄道を中心とする交通地理学の研究者であるが、専門的な研究から得た成果や発想を、短文（コラム）の集成や複数著者の寄せ集めではなく、一般図書として系統的に敷衍・再構成するという作業に取り組み、それは見事な成功をみせている。とりわけ数多くの図版を随所に盛り込んだコラムは一般読者にも容易に理解できるよう工夫されている。このような作業は、従来、人文科学や社会科学で頻繁にみられるが、人文地理学では乏しいうらみがあった。その点で、本書は今後、人文地理学の研究者が取り組むべき2本柱、すなわち専門分野向けの論文・著書の執筆と、一般読者向けの通読可能で魅力的な単著の執筆のうちで、著しく欠けているといえる後者の分野において、社会的に著しい貢献をなす一つの道標になりうる図書といえよう。

よって、本書を、人文地理学会学会賞（一般図書部門）の授与にふさわしい著作として推薦する。

【別紙4】

2010年9月30日

人文地理学会会長  
金田章裕 様

第10回人文地理学会学会賞（論文部門）候補者選考委員会  
委員長 松原 宏  
委員 岩鼻通明  
委員 関戸明子  
委員 由井義通

本委員会は、第10回人文地理学会学会賞（論文部門）候補者として、下記の会員に決定したので、選考理由を付して以下の通り答申する。

記

受賞候補者：野尻 亘

受賞候補論文：「分布・境界と進化—アルフレッド・ラッセル・ウォレスの生物地理学方法論—」『人文地理』第61巻第4号、2009年、293～311頁

選考理由：

本論文は、「ウォレス線」で知られるアルフレッド・ラッセル・ウォレスの研究業績を取り上げ、なぜ生物分布から進化論を着想したのか、生物分布圏域やその境界といった概念が、地理学方法論上でどのような意味をもつのかについて、考察したものである。

論文ではまず、ウォレスの生い立ちからアマゾンへの調査旅行、マレー諸島への探検調査を紹介するとともに、種の近縁性に関する「サラワク法則」と、変種の進化に関する「テルナテ法則」と呼ばれるウォレスの代表的な見解の解説を通じて、生物地理学的進化論が形成されていく過程を描いている。その上で、マレー諸島においてウォレス線が引かれる経緯や根拠を明らかにし、他の研究者による線引きとの比較も行っている。さらに、大著『動物の地理的分布』などの内容を紹介しながら、世界の動物地理区分に関するウォレスの考え方を整理している。論文の最後では、ウォレスが生物の地理的分布データを進化論に接合させようとしたことや、動物相を指標とした類型化による地域区分を採用したことなどを指摘し、地理学方法論に与えた影響の大きさや今日的再評価の必要性を強調している。

このように本論文は、ウォレスの生物地理学研究を詳細に検討して、生物分布をもとにした地理区分の設定が地理学的方法論的基礎となっていることなどを論じており、近代地理学史研究における重要な成果として評価できる。生物個体の変異に着目したダーウィンの進化論に対して、ウォレスの場合は、地殻変動や海水準変動などの環境の変化と生物の地理的分布を重視したとして、両者を比較している点も興味深い。表題の「分布・境界と進化」は、生物地理学にとどまらず、現代の人文地理学研究において重要な課題であり、今後の研究成果の拡がりを大いに期待したい。

よって、本論を、人文地理学会学会賞（論文部門）の授与にふさわしい論文として推薦する。



## 【運営費会計】

## ＜収入の部＞

科目	09年度予算	09年度決算	充足率	差額
1 会費	¥15,500,000	¥13,906,775	89.7%	¥-1,593,225
2 出版物売上	¥1,000,000	¥1,031,000	103.1%	¥31,000
3 雑収入(受取利息を含む)	¥100,000	¥61,324	61.3%	¥-38,676
4 受取利息	¥20,000	¥15,142	75.7%	¥-4,858
5 未払い費用(選・名・文献)	¥750,000	¥750,000	100.0%	¥0
6 研究成果公開促進費	¥1,800,000	¥1,800,316	100.0%	¥316
計	¥19,170,000	¥17,564,557	91.6%	¥-1,605,443

## ＜支出の部＞

科目	09年度予算	09年度決算	充足率	差額
1 雑誌生産費	¥6,200,000	¥6,007,576	96.9%	¥-192,424
2 (超過頁課金)		¥-35,000	—	¥-35,000
3 編集費	¥650,000	¥681,715	104.9%	¥31,715
4 雑誌発送費	¥1,000,000	¥915,962	91.6%	¥-84,038
5 集会費	¥350,000	¥350,000	100.0%	¥0
6 大会開催費	¥800,000	¥321,723	40.2%	¥-478,277
7 研究部会運営費	¥400,000	¥400,000	100.0%	¥0
8 給料手当	¥4,550,000	¥4,440,538	97.6%	¥-109,462
9 保険料	¥600,000	¥633,229	105.5%	¥33,229
10 役務費	¥220,000	¥249,350	113.3%	¥29,350
11 旅費・交通費	¥300,000	¥277,160	92.4%	¥-22,840
12 通信費	¥250,000	¥273,566	109.4%	¥23,566
13 啓発事業費	¥300,000	¥220,750	73.6%	¥-79,250
14 顕彰事業費	¥100,000	¥113,240	113.2%	¥13,240
15 広報事業費	¥50,000	¥30,000	60.0%	¥-20,000
16 会合費	¥120,000	¥89,029	74.2%	¥-30,971
17 選挙費	¥200,000	¥121,755	60.9%	¥-78,245
18 選挙費積立金	¥0	¥0	—	¥0
19 諸印刷費	¥50,000	¥61,950	123.9%	¥11,950
20 名簿作成発送費	¥500,000	¥490,111		¥-9,889
21 名簿作成発送費積立金	¥0	¥0	—	¥0
22 文献目録作成補助費	¥500,000	¥0	0.0%	¥-500,000
23 備品費	¥70,000	¥0	0.0%	¥-70,000
24 備品費積立金	¥0	¥0	—	¥0
25 消耗品費	¥100,000	¥135,305	135.3%	¥35,305
26 機械借上費	¥300,000	¥239,024	79.7%	¥-60,976
27 室料(家賃)	¥1,200,000	¥1,187,446	99.0%	¥-12,554
28 雑損	¥10,000	¥2,500	25.0%	¥-7,500
29 予備費	¥350,000	¥369,783	105.7%	¥19,783
計	¥19,170,000	¥17,576,712	91.7%	¥-1,593,288

収支差額	¥0	¥-12,155
------	----	----------

## 【別紙6】

## 【資金会計】

科目	09年度期首	09年度期末	10年度期首
1 運営資金 <sup>1)</sup>			
2 振替貯金	¥1,866,211	¥3,134,048	¥3,134,048
3 普通預金1	¥3,878,922	¥4,521,830	¥4,521,830
4 普通預金2	¥7,439,823	¥6,407,433	¥6,407,433
5 通常貯金	¥3,745,989	¥2,078,976	¥2,078,976
6 現金	¥15,866	¥32,887	¥32,887
7 定期預金	¥2,282,251	¥2,291,733	¥2,291,733
8 保証金	¥1,400,000	¥1,400,000	¥1,400,000
9 未払い費用(選・名・文献・備品)	¥-750,000	¥0	¥-300,000
10 文献目録返却	¥0	¥0	¥2,334,549
11 運営費会計へ	¥0	¥0	¥-200,000
計	¥19,879,062	¥19,866,907	¥21,701,456
期首期末差額		¥-12,155	¥1,834,549
所得税納付に伴う預り金 <sup>2)</sup>	¥0		¥0

1) 運営資金の利息・利子は「収入の部」の受取利息に計上。

2) 振替貯金に含まれる。

## 【運営費会計】

## &lt;収入の部&gt;

科目	10年度予算	
1 会費	¥14,400,000	減少
2 出版物売上	¥1,000,000	現状維持
3 雑収入	¥100,000	現状維持
4 受取利息	¥20,000	現状維持
5 未払い費用(選・名・備品)	¥300,000	やや減少
6 研究成果公開促進費	¥1,700,000	確定
7 資金会計より	¥200,000	新規事業用
計	¥17,720,000	

## &lt;支出の部&gt;

科目	10年度予算	
1 雑誌生産費	¥6,100,000	減少
2 (超過頁課金)		
3 編集費	¥650,000	現状維持
4 雑誌発送費	¥950,000	やや減少
5 集会費	¥350,000	確定
6 大会開催費	¥900,000	増加(立教大)
7 研究部会運営費	¥400,000	確定
8 給料手当	¥4,000,000	減少
9 保険料	¥400,000	減少
10 役務費	¥150,000	大幅減少
11 旅費・交通費	¥300,000	現状維持
12 通信費	¥250,000	現状維持
13 啓発事業費	¥350,000	増加(学術会議シンポ)
14 顕彰事業費	¥100,000	現状維持
15 広報事業費	¥50,000	現状維持
16 会合費	¥100,000	やや減少
17 選挙費	¥0	
18 選挙費積立金	¥100,000	積立へ
19 諸印刷費	¥50,000	現状維持
20 名簿作成発送費	¥0	
21 名簿作成発送費積立金	¥150,000	減少(従来40万)
22 新規事業	¥200,000	新規
23 備品費	¥170,000	増加(製本)
24 備品費積立金	¥50,000	増加
25 消耗品費	¥100,000	現状維持
26 機械借上費	¥300,000	現状維持
27 室料(家賃)	¥1,200,000	現状維持
28 雑損	¥10,000	現状維持
29 予備費	¥340,000	ほぼ現状維持(IGU25万)
計	¥17,720,000	
収支差額	¥0	

2010年度 人文地理学会 役員（案）

（2010年11月～2011年10月）

(1) 会長（ただし任期は2012年10月まで） 山野正彦

(2) 評議員（20名；ただし任期は2012年10月まで）

秋山元秀 生田真人 出田和久 今里悟之 小方 登 香川貴志 川端基夫  
小島泰雄 小林 茂 米家泰作 島津俊之 田中和子 田和正孝 堤 研二  
福田珠己 藤巻正己 松田隆典 三木理史 南出眞助 矢野桂司

(3) 協議員（50名；ただし任期は2012年10月まで）

北海道・東北： 杉浦 直 日野正輝 氷見山幸夫  
関東： 荒井良雄 井田仁康 伊藤達也 熊谷圭知 杉浦芳夫 関戸明子 田林 明  
手塚 章 戸所 隆 中西僚太郎 野中健一 箸本健二 村山祐司 矢ヶ崎典隆  
山下清海 山近久美子  
中部： 阿部和俊 有菌正一郎 大西宏治 林 上 溝口常俊 横山 智  
近畿： 秋山道雄 石川義孝 伊東 理 上杉和央 大城直樹 加藤政洋 金坂清則  
金田章裕 古賀慎二 高橋春成 長尾謙吉 野間晴雄 長谷川孝治 藤田裕嗣  
水内俊雄 吉越昭久 吉田容子  
中国・四国： 荒木一視 岡橋秀典 金 科哲 平井松午 藤井 正  
九州： 高木彰彦 平岡昭利 山本健兒

(4) 監査（2名；ただし任期は2012年10月まで） 吉越昭久 日野正輝

(5) 委員会理事・委員（36名）

庶務委員会 理事；田中和子 委員；埴淵知哉、原口 剛（新）、堀内千加（新）  
会計委員会 理事；川端基夫 委員；北川眞也（新）、柴田陽一  
編集委員会 理事；出田和久 委員；天野太郎、池谷和信（新）、小方 登（新）、  
貝柄 徹（新）、香川貴志、加藤政洋、河原典史（新）、島津俊之（新）、  
土平 博、中川聡史（新）、花岡和聖、三木理史（新）、水野眞彦（新）、  
山崎 健（新）、山本俊一郎、吉田道代、和田真理子（新）  
集会委員会 理事；藤巻正己  
委員；河角龍典、神田孝治（新）、根田克彦（新）、吉田容子（新）、  
企画委員会 理事；田和正孝  
委員；金子直樹（新）、波江彰彦、鳴海邦匡（新）、山神達也